

# 特集

## 子どもと春

### 一年生に教えてもらったこと

渡辺 敏

私は今までに二度、小学校一年生を担当しました。そのどちらも忘れられない思い出ですが、四月当初に担任になった時の気持ちは、かなり違っていました。

#### 一度目の春

教師十年目、初めて一年生の担任になった時私は子どもたちを早く立派な小学生にしようと燃えていました。当時、勤務校では幼稚園と小学校のなめらかな接続の研究を始めたばかりでした。自分の中では、園児たちを早く小学校に慣れさせ、一人前の小学生にしたという思いでいっぱいでした。

#### 特集 子どもと春

入学した直後の四月の末に算数の研究授業をしまし

た。「接続期を設けて幼稚園の学びと小学校の学びをなめらかに」と研究は進んでいたのですが、私は「子どもたちは早く算数を学びたがっているじゃないか。きつと入学したての一年生でもできる算数の授業があるはずだ」と考えて、色板を使った形作りの授業をしたのです。

授業後の話し合いでは「この時期に算数の内容は早すぎるのではないか」という意見が出ました。「研究に逆行している！」とも言われました。それでも自分の中では「このように教師が引っ張っていけば早く力が付き、学力も伸びるはずだ」という思いをもっていました。

## トップダウンの学力観

今思えば、教師の思いのみで一年生を鍛えていこうとしていたのです。教師からトップダウンで教えれば力が付くと思いついていました。この時の頭の中には子どもの実態は不在でした。

このような気持ちで授業をする中で、何度か迷ったことがあります。休み時間にはあれほど元気な顔を見せる子どもが、授業になると元気がなくなってしまうのです。何か違うのだなという思いをもちながらも、よい手だてを打つことができずに四月の接続期は終わりました。

## 幼稚園の先生との教材開発

研究が進む中で、幼稚園の先生と一年生入学時の学習内容を協働で考えられないか、という案が出されました。たまたま私が担当となったので、「ジャガイモ掘り」を使って学習ができないか構想を練りました。

幼稚園で

もジャガイ

モ掘りは経

験済みの

で、その活

動の中で見

られる園児

の姿を幼稚

園の先生に

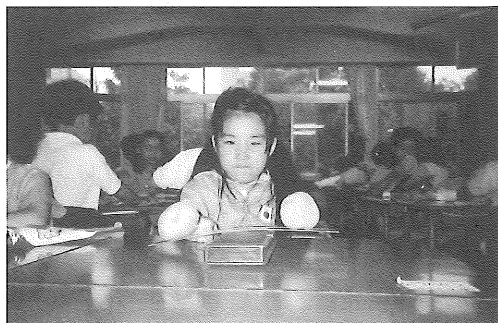
話してもら

いました。

・パーティーでジャガイモを、みんなに分ける活動はしている。

・見た目でジャガイモの大きさは比べている。

このような実態を聞いて、「形で大きさを考えているのなら、実際の重さ比べをしてみよう」と考え、重



▲ジャガイモの重さ比べ

さの直接比較の学習をすることにしました。子どもたちに見た目は同じくらしいジャガイモを提示し、「どちらの方が重いと思う？」と問い、学習をスタートしました。

比べ方は、子どもたちからアイデアを募りました。「定規の端と端に乗せてシーソーみたいにして比べる」「転がして早さで比べる」「袋に入れて、手首にしたり、重い方が手首が赤くなる」

子どもたちの生活に根ざしたアイデアは素晴らしい方法ばかりでした。子どもたちはいろいろな方法に積極的に取り組み、いい学びができました。「あっ！一年生の生活と学びをつなげてあげれば、こんなに活き活きと学ぶんだな」

この実践が、その後の学習を計画する際にも大変参考になりました。

### 二度目の春

初めて受けもった一年生を三年生まで担任し、その

後再び一年生の担任になりました。一度目と大きく違ったことは、幼稚園との研究を積み重ねる中で、園児の生活を見る機会が増え、実態がかなり理解できたこと、また園の先生とも園児の学びや生活について語る機会が増えたことです。

入学したての子どもたちは、大きな不安を抱えています。教室に行けばみんなきちんとして椅子に座って、先生が来るのを待っています。幼稚園のころは、朝、思い思いの遊びをしていたのに、これは大きなギャップです。また、知っている友達がいなくても不安の要素です。仲良しができ、その子と遊ぶ休み時間があるだけで安心した学校生活が送れるものです。私はこの不安が無くなるように三つのことに取り組みました。

- ・ 幼稚園時代に楽しんでいたことを取り入れる。
- ・ 隣の友達との交流をたくさん設定する。
- ・ 四人組のファミリーでスピーチを取り入れる。

一点目の「幼稚園時代楽しんでいたこと」で考えて取り組んだのは、「読み聞かせ」と「お絵かき」の間でした。毎朝、黒板の前に全員を集めて座らせ、ゆっくり絵本を読み聞かせます。終わると今日の予定などを話し合います。黒板の前は大変小さい空間ですが、入学したての子どもたちが話を聞くにはちょうどいいサイズではないかと思うのです。各自が椅子に座っていると広すぎて一人ひとりの耳には届いていないことが多いのではないかと思います。

ほかに、お絵かきの時間をこまめに取り入れられました。子どもたちはこの時間が大好きで、夢中になって取り組んでいました。この「楽しい」夢中になれる「時間を小学校生活の中にいかに散りばめていけるかがとても大切だと思うのです。

二点目の隣の友達との交流は、さまざまな場面で取り入れられました。「国語の教科書を一文ずつ順番に読む」「算数の問題の答え合わせをする」など。さまざまな学習場面に取り入れることで自然な会話が生まれ

るようになり、緊張した顔が笑顔になっていきました。

三点目はファミリーのスピーチです。私の勤務校では各学年いろいろな形で子どもたちにスピーチをさせています。一年生の入学時は目と目が向き合う、いろいろなことがすぐに聞ける四人組がいいのではないかと考えて取り組みました。子どもたちは顔を突き合せ、思い思いの話を楽しんでいました。

この時間以外でもこのファミリーは昼食を一緒に食べたり、校外学習などでは一緒に行動するグループだったりしたので自然と仲良くなっていきました。

## 二度目の一年生は

### トップダウンからボトムアップ

この年の十月に公開研究会があり、一年生の担任は接続期の研究について提案をしました。その会で次のように聞かれました。

「接続期の学習を、あなたはどのように構築しているのですか?」。私は「頭の中で、『これはきつと子ども

たちが熱中するな』、「これはあまりうまいかないな」という暗算をしながら取り組んでいる」と答えました。

すると研究にいつも助言をしてくださっていた園長先生から、「その暗算の中身をもっと詳しく教えてほしい」と聞かれました。私はしばらく考えて「小学校の各学習のねらいと、子どもたちが熱中することが予想される活動形態を頭の中でミックスして計画している」と答えました。この質問があるまで、あまり理論的に考えていなかっただけに、頭の中がすっきりしました。

このほかに、いつも助言をいただいている大学の先生からは「渡辺先生、授業が変わりましたね。いい意味で迷っている」と言われました。子どもに寄り添い、学習を考えていく姿を見てもらえたのではないかと思います。

一度目の一年生ではトップダウンだった気持ちが、二回目の一年生ではボトムアップに変わっていました。

## 終 わ り に

二度目の一年生を担任した四月の接続期に、「幼稚園探検」をしました。子どもたちは、昔遊んだ遊具などで楽しい時間を過ごしました。保健室で本を読むことが好きだった子は、全く同じ時間を再現していました。ある女の子は、廊下に大の字になって寝ていました。「何が見えるの?」と聞くと、「懐かしい。こうやって寝るのが大好きだったの」と、とても満足そうでした。休み時間遊んだまま帰ってこなかったり、校外学習に出ると迷子になったりと心配していた子だったので、幼稚園時代の姿に触れて納得。「幼稚園時代と変わっていないんだな。むしろ小学校で頑張っているじゃないか」。そう思うと、私もすっかり気持ちが楽になりました。

園児時代の過去の生活に思いをはせ、そこから一年生の生活をつくっていく。その大切さを実感した時間でした。

(お茶の水女子大学附属小学校)